

本科 1 期 7 月度

解答

Z 会東大進学教室

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T
京大英語／難関大英語 T（京大）
一橋大英語／難関大英語 T（一橋大）



11章 総合問題11

問題

【1】

A.

全訳

大聖堂や議会と同様に、大学は中世が生み出したものである。①奇妙に思えるかもしれないが、ギリシャにもローマにも、過去7, 8世紀の間に使われてきた意味での大学というものはなかったのである。彼らの法学、修辞学、哲学における教育機関を凌ぐことは困難であろうが、そうした機関は恒久的な教育機関へと組織立てられなかった。②12, 13世紀になってようやく、我々がよく知っている、体系的な教育の特徴、すなわち教授陣や諸単科大学、教科課程、試験、学位などによって代表されるような、教育のための仕組みのすべてが世に現れるのである。これらのすべての事柄において、我々はアテネやアレキサンドリアではなく、パリやボローニャの相続者であり継承者なのである。

B.

全訳

①語彙の違いが思考にある程度の影響を与えるということはほとんど疑いがない。少なくともそれを表す語がある事物について考える方が容易である、という意味においてはそう言える。我々は、習慣的に、ある種の色を「赤」という語で呼び他の色を「青」と呼ぶ。典型的に赤い物、または典型的に青い物を与えられた時、我々はすぐその色を名指す。②我々は「赤」および「青」という言葉を即座に利用できる。というのも、それは我々が長きにわたってある物を赤と呼び、他の物を青と呼ぶ経験をしてきたからである。我々は赤い物または青い物の色を覚えるのにさして苦労はしないであろう。しかしほとんど黒といってもよいくらいに、茶色の中でも非常に暗い色合いのものを与えられたらどうであろう。この特定の色を表す普通の言葉は英語にはない。十中八九あなたはそれを「茶色」と呼ぶことも「黒」と呼ぶことも躊躇することになるだろう。なぜならそれは通常「茶色」とか「黒」とか呼ばれる典型的な色ではないからである。③結局あなたは「非常に暗い茶色」とか「茶色がかった黒」とかいう表現に頼ることになるであろうが、そうした表現はおそらく「赤」とか「青」ほど速くかつ即座に頭に浮かびはしないであろう。我々は赤と青を区別するほどには、茶色の中の様々な色調を相互に区別することに慣れていないのである。④典型的に赤い物の色を記憶するよりは（他の色調の茶色と対比して）ある特定の色調の茶色を記憶の方が骨が折れることがわかるであろう。その反対に、我々の言語がこの非常に暗い色調の茶色を表す別個の語を持ち、この色を持った物をこの語を用いて描写することによって類別することによって我々が慣れているとすれば、その場合にはそんな困難はないであろう。

【2】

解答

- (1) ⑥ first [given ; Christian] ⑦ sex
- (2) 「全訳」の下線部③を参照。
- (3) 「全訳」の下線部④を参照。
- (4) 言葉は男性によって男性のために作られたもので、女性の視点は排除されている。(37字)

解説

- (1) ⑥男性の出演者たちは“Prof.”と肩書で呼ばれていたのに対し、その女性作家は博士号を持っているにもかかわらず、“Dr.”と姓では呼ばれなかった。
- (2) 「15分間のインタビューに5人が出演していたのであるから、均等に割っても1人3分間であるが、その作家がその番組の主賓であるという状況下ではそれ以上であるのが然るべきである」という常識的判断ができれば容易。
- (3) 「それは私の頭を横切りさえした——その著者は1つの故意の戦略を採用していたということが——1つの微妙な、生きている例を提供するために——いくつかのその事々に関して——それらについて彼女は書いていた。」《直訳》

全訳

数年前、ある著名な男女同権主義者の作家が、英国のテレビで彼女の言語と性に関する新しい本についてインタビューされた。その本の中で彼女が力説していたのは、言語は男性による産物で、女性を無視し、排除するために人類の半分にあたる男性が男性のために考案したものであるということであった。彼女にインタビューしたのは、男性であるその番組の司会者と3人の男性の大学関係者で、そのうちの2人は英語の教授であった。私は彼女の本を自分で読んでいたので、彼女が何を話すかに大いに興味を持っていた。しかしながら私は驚かされ失望させられることになった。というのもその15分のインタビューで発せられた言葉の大半はその男性たちによるものであったからである。もっとはっきり言えば、私は正確に計測していたわけではないけれども、その時の私の見積もりでは、③その作家が話したのは彼女のいわゆる「民主的な」取り分である3分よりも短く、それはこの状況下で期待されるよりもずっと短いものであった。このことは、その作家の座談に寄与しようとする意欲あるいは能力の欠如によるものであるとは思われなかった——なにしろ彼女はその本を書いていたからだ。それに、私は彼女が非常に聡明で、はっきりと物を言う人物であることも知っていた。私がさらに気が付いたのは、彼女が言葉の途中で少なくとも2度さえぎられたということであった——彼女の方では誰もさえぎらなかったのに。最後に、彼女は30代で、博士号を持っていたのに、司会者和其他の出演者たちに一様に名で呼ばれ、1度など「そのあなた」とまで呼ばれていた。これは他の出演者たちとは異なっていた。彼らは必ず公式の大学の肩書で呼ばれていたからである。

この挿話によって提起される問題は複雑である。私を捕らえたのは出演者たちの振る舞いであった——彼らは男女間の対応の例の定型を演じていた。大半の人々はおそらく女性と男性とが同じ状況でも異なった反応を示すことを期待するのであろう。そしてこうした期待もある場合には非合理的なものではない——もっとも実際には何の根拠もない場合もあるのだけ

れども。相手が男性であるか女性であるかを知ることは、日々の振る舞いのための数多くの基盤のうちの1つであるに過ぎない。しかし私は、その作家が自己を主張する態度で反応してくれることを期待していた——彼女は女性であり、自己主張は一般的には女性らしさに結び付けられるものではないが。私は、なぜ彼女の振る舞いが私の期待に沿わなかったのかを明らかにする必要があると感じた。彼女を自己主張の猛攻撃で叩いて屈伏へと追い込んだ出演者たちに彼女の沈黙に対する責任があったのだろうか。彼女は予想に反して、他人への接し方に関しては定型的に女性的であったのだろうか。そのテレビという公式の設定が、出演者たちの個々の性向を圧倒して飲み込んでしまったのだろうか。④その作家は彼女が書き著した事柄のうちのいくつかの巧妙な、生きた実例を示すために、あえて意図的な戦略を用いたのではないか、という考えが私の頭をよぎりさえした。

注

- ℓ. 2 ◇ on = concerning
 - ◇ which … 先行詞は her new book on language and the sexes
 - ◇ argue = give reasons or cite views in a heated way
 - ◇ forcefully = in a forceful way
 - cf. forceful = assertive
- ℓ. 3 ◇ product = a thing that is produced to the neglect and exclusion of women
 - ◇ the male … half of the species と同格。
 - ◇ the species = the human species
 - ◇ to … 「目的；結果」
- ℓ. 4 ○ neglect = the fact of not giving enough care or attention to something or somebody
 - exclusion = the process or state of excluding or being excluded
 - cf. exclude = remove from consideration
- ℓ. 5 ◇ academic = a teacher at a university, college, etc.
 - ◇ , two of them (being) full professors
 - full professor = a professor of the highest grade in a university 「(米・カナダ) 正教授」
 - cf. associate professor 「准教授」
 - assistant professor 「助教授」
- ℓ. 6 ◇ what she had to say 「彼女が言いたかったこと」
 - what は say の目的語。
- ℓ. 10 ◇ might … 仮定法。under the circumstance が仮定の意を含む。「人がその状況下であれば期待し得たであろうよりも」。
- ℓ. 11 ◇ after all 「① (予想に反して) 結局は；② なにしろ～だから；③ なんののかんの言ってもやはり」
- ℓ. 12 ◇ articulate = expressing thoughts clearly ; speaking clearly
- ℓ. 15 ◇ address = speak to
 - ◇ alike = in the same way

- ℓ. 16 ◇ as 「～として」
 ◇ my dear … used when talking or written to someone that you love or like a lot
- ℓ. 18 ◇ issue = a point in question ; an important subject of debate 「(議論の対象となる) 問題」
 ◇ captivate [kæptəvèt] = fascinate
- ℓ. 19 ◇ enact [mækt] = perform (on a stage)
 (= en- + act 「act させる」)
 ◇ stereotype [stériətàip] 「固定観念；既定概念；通念」
 ◇ male-female interaction 「男性の女性に対する〔女性の男性に対する〕対し方」
 ◇ interaction [intəɾækʃən] = the activity of talking to other people, working together with them, etc.
- ℓ. 23 ◇ assertive = behaving in a confident way, so that people notice you
- ℓ. 24 ◇ associate A with B = connect A with B (in the mind)
 ◇ femininity [fēmənínəti] = quality of being feminine
- ℓ. 25 ◇ at odds = disagreeing (with something) 「～に対して不均等で」
 cf. odds = inequalities 「優劣の差」
- ℓ. 26 ◇ bash = strike ; attack
 ◇ submission cf. submit = give way ; yield
 ◇ onslaught [á:nslə:t] = a strong, fierce or violent attack
- ℓ. 27 ◇ after all 「①(予想に反して) 結局は；②なにしろ～だから；③なんののかんの言ってもやはり」
- ℓ. 28 ◇ overwhelm = have a strong emotional effect on; bury
 cf. Lava from erupting Vesuvius *overwhelmed* the city of Pompeii.
 (バズビアス火山から噴出した溶岩はポンペイの町を埋めた。)
 ◇ disposition = a natural tendency or inclination 「性向」
 cf. dispose = give a tendency to
- ℓ. 30 ◇ write about 「(テーマ) について書く」
 e.g. write *about* a novel (ある小説について書く)
 cf. write a novel (小説を書く)

【3】

A.

解答

- (a) (1) He married without the knowledge of his parents(.)
 (2) Their resemblance was so close that they were obviously brothers(.)
 (3) Darkness is the absence of light(.)
- (b) (1) A refusal to compromise kept me out of office.
 (2) In March, each rainfall brought warmer days.
 (3) Constant efforts finally enabled Dr. Miyazawa to get the position.

- (c) (1) He is a habitual liar. **別解** He always tells lies.
 (2) We took a short rest. **別解** We rested for a while.

解説

- (a) (1) 「彼は結婚した」を he married とすれば、「両親の知らない間に」に対応するのが without the () of his parents となることがわかる。さて、空所にどんな名詞が入るかであるが、この文には「彼の両親は彼の結婚のことを知らなかった」、つまり、his parents did not *know* of his marriage という英文が潜在しており、ここではその名詞構文を要求していると考えれば、空所に補うのは knowledge となる。
- (2) so と that が与えられているので、so ~ that …構文であることを見抜けば、their () was so close that they were obviously brothers とすることができる。あとは、(1) と同じ考え方で、「彼らはよく似ていた」、つまり、they resembled each other very closely という文が潜在していることから、空所には resemblance を補えばよい。
- (3) darkness is the () of light とまではできるが、空所に入る名詞を考えるのは難しいかもしれない。「闇とは、光がないことである」という文を我々がよく書く英語にすれば、darkness is the state in which light is *absent* となる。ここでは、その名詞構文と考えて、空所には absence を補うことになる。ただ、absent = 「欠席の」というように機械的に覚えている人には、この問題は難しい。Calcium is *absent* from his diet. (彼の食事にはカルシウムが欠けている。), Diligence is *absent* from his character. (彼の性格には勤勉さが無い。), a complete *absence* of evidence (証拠がまったくないこと) のように、用例で基本語を頭に入れておくことが重要となろう。
- (b) (1) a refusal (拒否) で始めるという条件なので、「妥協に対する拒否が、私を職から遠ざけた」と考える。
 「妥協する」は compromise, 「…(すること)に対する拒否」は a refusal to … となるので、「妥協に対する拒否」は a refusal to compromise となる。
 「職」を「公職」と考えれば、後半は, keep O out of ~ (O を ~ に加わらせない) を用いて, keep me out of office とすればよいし、単に「仕事」と考えれば, keep me out of the job [keep me from getting the job] とすればよい。
- (2) each rainfall (一雨一雨) という主語に続く動詞が難しいが、英語の発想では、「一雨一雨がより暖かい日々をもたらした」と考えて, brought warmer days とする。このような無生物主語の文では、用いる動詞はある程度決まっているので、1 つひとつ覚えていくのが基本。
- (3) constant efforts (不断の努力) が主語として与えられているので、「不断の努力が、O が…するのを可能にした」と考えて, enable O to … (O が…するのを可能にする) という入試頻出の構文を用いる。
 「ついに」は finally, at last.
 「地位を獲得する」は get [gain; acquire; secure] the position, be given the

place とする。

- (c) (1) 普通に考えれば, He always lies [tells lies] . となる。

「いつも嘘をつく」のだから, tells a lie ではなく, tells lies を用いる (実際の英語では, 特定の1つの嘘にもしばしば lies を用いるくらいである)。

さて, もう1通りの英訳だが, 英語では, He is a good swimmer. (彼は泳ぎがうまい。) のように, 「形容詞 + 動作主 (名詞)」の表現形式が発達しているので, ここでもそれを応用し, 「彼は常習的な嘘つきだ」と考えて, He is a habitual liar. とすればよい。この形は, He is a habitual coffee drinker. (彼はコーヒーをよく飲む。), He is a habitual drunkard. (彼はいつも酒びたりだ。) のように, 慣用的によく用いられる。

- (2) 「休む」は rest, 「ちょっと」は「少しの間」と考えて, for a (little) while [for a short time] となる。したがって, We rested for a while. はすぐにできる。

もう1つの言い方は, 「休んだ」を名詞を用いて表現できないかと考える。rest は名詞では「休憩」の意味なので, 日本語と同様に「少し休みをとった」と考えて, took [had] a short rest とする。rest の代わりに break を用いて, took [had] a short break とすると, より口語的な英語となる。

B.

解答例

I agree with this opinion. First, juvenile crimes are increasing in number. The trend must be reversed by taking a tougher stance towards teenage criminals. Second, most juvenile crime victims are other juveniles. Doesn't law and order exist to prevent people from hurting each other? Third, you cannot change a person simply by being sympathetic. Severe punishment is needed. (59 語)

別解

I disagree with this opinion. First, crime mirrors society. That's why adults often find themselves reflected in the way teens behave. The blame for the situation lies with adults. Second, young people, unlike grown-ups, are good at changing their behavior and attitudes. It's not punishment but education that can help them start anew. (53 語)

解説

英文で示された見解は「少年犯罪は成人による犯罪と同じくらい厳しく処罰されなければならない。」というもの。自由英作文では, このような社会的なテーマが出題されることが多い。よって, 新聞をしっかりと読んでおくことも効果的な受験勉強法であると言える。

以下に, 賛否論述型の自由英作文を解く際のポイントを示すので, 参考にしてほしい。

賛否論述型のポイント

- ①出題されたテーマを正確に理解する。
- ②賛成, 反対, それぞれの立場をとった場合に, どのような根拠が考えられるかを簡単にメモを取りながら考える。その上で, 書きやすい方の立場をとるようにするとよい。
- ③与えられた見解に対する賛否を冒頭で簡潔に述べる (= 主題部)。
- ④次に, 1つから2つくらいの理由を挙げる。理由はできるだけ具体的であることが望まし

く、冒頭で述べた主張を補強するものでなければならない (= 例証部)。

⑤ 日本語をそのまま英訳しようとすると、概して意味の伝わりにくい英文になりがちである。

伝えたい内容を簡単な英文で表すよう心がけよう。

⑥ 最後に、主語と動詞の‘数の一致’や時制などをチェックし、文法的なミスのない英文にするようにしよう。

「解答例」に使われているものを中心に、このテーマに使えるような語句を以下に示しておく。

- 「罪を犯す」 commit a crime
- 「未成年者」 a juvenile。 cf. 「成年」 an adult
- 「少年犯罪」 juvenile crime。個々の犯罪を指す場合は可算名詞扱い。
- 「～に対して厳しい態度を取る」 take a tough stance on ～
- 「厳しいしつけ」 severe discipline
- 「少年非行」 juvenile delinquency。個々の犯罪を指す場合は可算名詞扱い。
- 「A (人) に B のことでの謝罪する」 apologize [make an apology] to A for B
- 「少年裁判制度」 the juvenile justice system
- 「法と秩序」 law and order
- 「社会を写す鏡である」 mirror society。この mirror は他動詞で「～を反映する」の意。
- 「(責任などが) ～にある」 lie with ～
- 「犯罪者の更正に的を絞る」 focus on the rehabilitation of criminals
- 「出直す；再出発する」 start anew
- 「思春期の少年少女」 an adolescent
- 「家庭環境の問題」 a problem of one's family environment
- 「大人と同じ価値観を持つ」 have the same values as adults
- 「非現実的な世界に住む」 live in an unreal world
- 「貧困と放任と虐待の犠牲者」 a victim of poverty, neglect and abuse
- 「明るい未来を切り開く」 open up the way to a bright future
- 「現実に対応する」 adjust to reality

【4】

解答

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) b | (2) b | (3) d | (4) c | (5) c |
| (6) a | (7) d | (8) c | (9) c | (10) d |
| (11) d | (12) e | (13) d | (14) b | |

解説

(1) 「これらは誰の本か知らないが、私のものではないのは確かだ。」

mine 「私のもの」 = my books より、b が正答。

(2) 「子供が自分自身の部屋を持てたら結構なことだ。」

所有格は、冠詞、指示代名詞 (this, that など)、不定代名詞 (some, no など)、疑問代名詞 (which, whose など) と一緒に用いることはできない。

そこで、両方の意味を同時に表す必要があるときは、“of + 所有格” の形にしないで

はならない。この形態を二重所有格と呼ぶ。二重所有格はある人の持っている物などが2つ以上ある場合の「その中の1つ」を表すので、**d** a room of his を選ぶと、子供が2つ以上部屋を持っていることを含意することになり不適。

cf. this *Jim's* book (×) → this book *of Jim's* (○) (ジムの(所有している)この本)

Some friends of hers are coming today. (彼女の友達の数人が今日来る予定だ。)

※二重所有格の形になるのは、「主格, 所有, 所属, 作者関係」などを表す場合で、「目的関係」を表す場合は目的格の形を用いる。

cf. a painting *of my brother's* (弟が所有する絵, 弟が描いた絵)

a painting *of my brother* (弟を描いた絵)

- (3) 「リトル・ティムが1人である時は、自分以外には誰も聞いている人がいないのに、自分が何をするつもりなのかをずっと告げ続けている。」

○ no other A than B 「B以外に他にAはない」より、**d** が正答。

a else は形容詞、副詞の用法しかない。

b, **c** では意味を成さない。

- (4) 「私の言うことが信じられないなら、自分で見に行きなさい。」

○ for oneself 「(人に依頼せず) 1人で」より、**c** が正答。

cf. by oneself ① 「(他に仲間なく) 1人で」

② 「(他に原因なく) ひとりでに」

of oneself (古語) 「(他に原因なく) ひとりでに」

○ go and see

○ go and … 「…しに行く」

○ **e** at a glance = at first glance 「一目見て」

- (5) 「もう1冊読む本が欲しければ、書店で(何か1冊)買ってあげよう。」

○ a book = one より、正答は **c**。

a it は前出の名詞で特定なものを表す。

cf. I bought a good camera. I will lend it to you.

※ it = the good camera

- (6) 「私がばかなら、君も同じだ。」

○ another = another fool より **a** が正答。

- (7) 「私が述べている絵はそこにある絵だ。」

○ that one there 「そこにある～」より **d** が正答。

a one = a [an] + 名詞なので、the picture を受けることはない。

b 場所を表す副詞 there は文末に来る。

c 代名詞 that が、前出の名詞の反復を避けるための代用語としての用法では、後ろから修飾句で修飾される。

Ex. The temperature here is higher than *that* of Tokyo.

(ここの気温は東京の気温より高い。)

- (8) 「私が知っている、授業で聞いたことを覚える手助けとなる唯一の方法はノートを取るという方法である。」

- that = *the system* of keeping notes より **c** が正答。
 ○ help O (to) … 「Oが…するのを手伝う」
- (9) 「この大学には、教師に対する話し方さえ知らない学生もいる。」
 ○ some + 複数名詞 「(…する) 物〔人〕もある」
 some を否定文、疑問文でも用いる場合もある。よって **c** が正答。
a, **b** any … not の語順は不可。
d some of のように、some を代名詞として用いる場合は、some of *the students* と the が必要になる。
- (10) 「あなたたちの何人がそこにいるのですか。」
 ○ how many of you 「あなたたちのうちの何人が」
 ※ of ～ で限定された many の代名詞用法。よって **d** が正答。
e.g. many of the books I have read (私が今までに読んだ本の多く)
- (11) 「ジョンはパーティーへ行かなかった。メアリーも行かなかった。つまり、彼らの両方ともパーティーへ行かなかった。」
 ○ neither *pron.* 「(二者) のどちらも…ない」 より、 **d** が正答。
 ※三者以上の場合には none を用いる。
Ex. None of my three friends have [has] come yet.
a 「両方ともパーティーに行ったわけではない。」
b 「どちらか一方がパーティーに行った。」
 ○ either 「(二者) のどちらか一方」 ※単数扱い。
c 「ジョンとメアリーは一緒にパーティーへ行ったことは一度もない。」
- (12) 「彼は自分に関係のないことにいつも巻き込まれている。」
 ○ none of one's business 「～には関係のない」 より、 **e** が正答。
cf. Mind your own business! (余計なお世話だ!)
 ○ get mixed up in ～ 「～(よからぬこと) に関係する」
- (13) 「警察はその事故を目撃した人は誰でも連絡するように頼んだ。」
 ○ anyone who = whoever 「…する人は誰でも」 より、 **d** が正答。
 ○ the police 「警察官」(複数扱い)
 ○ ask that S (should) … 「Sが…するように頼む」
 ○ get in touch with ～ 「～と連絡をとる」
- (14) 「ジョンは話し下手であるが、彼は決してまぬけではない。」
 ○ anything but ～ 「決して～でない」 より、 **b** が正答。
d nothing but ～ 「ただ～のみ」

【5】

解答

- (1) **f** (2) **c** (3) **d** (4) **b**
 (5) 順に **b**, **c** (6) **d** (7) **f**

- (1) 「お金が必要なら、いくらか貸してあげよう。」
 some は「ぼんやりとした限定」を表す。ここでは「量」に対するそれ。
- (2) 「双子の 1 人は生きているが、もう 1 人は死んだ。」
 ○ one — the other (二者のうちの残り [残りの 1 つ])
- (3) 「彼には 5 人の娘がいる。1 人は結婚しているが、残りは結婚していない。」
 ○ one — the others (特定数のうち残りの全部)
- (4) 「私はこれは気に入らない。別のを見せて下さい。」
 ○ one — another (他の任意の 1 つ)
- (5) 「彼は 3 科目取った。1 つは数学、もう 1 つは物理、残りが化学だった。」
 ○ one — another (他の任意の 1 つ) the other (3 つのうちの残りの 1 つ)
- (6) 「少年たちの何人かはここにいますが、残り全員はどこにいるのか。」
 ○ some — the others (複数の残り全部)
- (7) 「英語が得意な者もいれば、得意でない者もいる。」
 ○ some — others (不特定な部分集合)

(1) 付加疑問文

- ① We were really lucky with the weather, weren't we?
- ② She was really beautiful, wasn't she?
- ③ That dish was really delicious, wasn't it?
- ④ Today's movie wasn't really interesting, was it?

(2) realize (that) ～「～ということに気付く；わかる」

- ① I didn't realize I was talking to the father of the groom.
- ② I didn't realize I was stepping on your toe.
- ③ I didn't realize it was so late.
- ④ When did you realize your bag was missing?

(3) the last time S + V 「最後に…した時」

- ① That was the last time I could get home to see everyone.
- ② The last time I went to San Francisco, I had a car accident on the freeway.
- ③ The last time I went to Yamagata, it was the hottest summer in twenty years.
- ④ The last time my uncle came to our house, we were in the middle of a fight.

(4) that is why [where ; how etc.] S + V 「そういうわけで [そこで ; そうやって] ～は…する」

- ① That's why it was in the living room.
- ② That is why our company should expand its markets in developing countries as well as in advanced countries.
- ③ A : What do you associate New Hampshire with?
B : That is where the first presidential primary election is held.
- ④ That is how he worked his way through college.

(5) have been …ing 「(ずっと) …している」

- ① She's been working there for four years.
- ② It has been raining off and on [on and off] since this morning.
- ③ How long have you been waiting for him?
- ④ This is the Tokyo Tower I have been hearing about.

(6) when it comes to ～「～のこととなると」

- ① When it comes to money he's not very practical.
- ② When it comes to computer, I know nothing.
- ③ When it comes to mathematics, he is better than anybody else.
- ④ When it comes to reading English, that's not a very good way.

12章 総合問題12

問題

【1】

A.

全訳

彼が他の学識人より優れていたのは、主に、いわゆる考え方、つまり頭の使い方と呼ばれるであろうものにおいてであった。それは、自分の知っているすべての中から役に立つものを把握して、明確かつ説得力のある方法でそれを表現することができるという、尽きることのないある能力であった。その結果、知識というものは理解力の鈍い人にとってはしばしばがらくた同然であるが、彼においては、真の明白な、実地的な知恵だったのである。

B.

解答

① 「全訳」の下線部①を参照。

② 科学者自身は、科学が一方では物質的に恵まれた天国を約束し、他方で核の地獄の脅威を与えるというジレンマから逃れようと、中には勇敢に努力した者もいたが、逃れることはできなかった。

③ 科学者が責任逃れの手段として口にする「我々は発見し、あなた方は利用する」という考え方によると、科学者はただ真理を追求して、新しい観念、新しい力、新しい道具を発見するだけである。

④ 「全訳」の下線部④を参照。

全訳

①現代の人々は科学を愛憎のますます深まる思いで見ている。一方において科学は物質的天国を約束し、他方ではダンテの途方もない空想も及ばぬ核の地獄の脅威を与える。科学者自身は、このジレンマから逃れようと、中には勇敢に努力した者もいたが、逃れることはできなかった。彼らは、ある時は科学が我々の社会を変革していることを認める発言をしながら、次に口を開くと、科学技術によって決定された変化という考えを一種の共産主義として攻撃する。科学と社会的変化の関係をとりまく不安と虚妄きやもうはこの問題を正面から解決する道を長い間妨げてきた。

もちろん科学者は、科学の偉大な恩恵とその技術面での利用とを自分の手柄にすることを拒まないが、自分たちが解放してしまったかもしれないますます大きな脅威となる悪魔的存在である科学に対する責任を問われるのは非常に迷惑に思う。多くの科学者が責任を逃れようとしたが、そのために一番よく口にする根拠は、「我々は発見し、あなた方は利用する」であった。この考え方によれば、科学者はただ真理を追求して、新しい観念、新しい力、新しい道具を発見するだけで、これらがよい目的に使われるか悪い目的に使われるかを決定するのは社会の他の分野の人々である。権力をこのように分担させる仮説的な考えには事実もあれば虚偽もある。よほど知識と教養が欠けていなければ、科学技術の発見を悪用したと

いって科学者を非難することはできないが、④これらの問題に科学者が関与して急速で穏健な解決を保証することができるという考えについても同じことがあてはまる。

【2】

ポイント

2つの段落から成り立っている。第1段落は、動物の生態研究についての著者の基本的な考え方が示されている。自由に動物を行動させるのは当たり前と言えそれまでであるが多くの学者はおりの中へ入れたまま研究することが多いという前提がある。第2段落では、放し飼いにしてあるハイイロガンの生態と1つのエピソードが面白く描写されている。最初に筆者の考え方が抽象的に述べられ、その後具体的な事実によって自分の考え方を検証するという展開方法はしばしば採られるので注目する必要がある。

解答

- (1) caged (2) 猿やオウム
(3) おりの金網は普通だと動物が外へ逃げていくのを防ぐためのものであるのに、ここでは家の中に入るのを防ぐ役目をしているから。(59字)
(4) 「全訳」の下線部④を参照。
(5) ③ b ④ c (6) a more b than
(7) refuge (8) 高等動物は放し飼いにしないと正しい観察はできない。(25字)

解説

- (1) in complete freedom は「まったく自由な状態にある」であるから、その逆は「おりの中に入れられた」である。
(2) 「そのような同居人」とは本文からは a caged monkey or parrot である。
○ house-mate = a person that you share a house with, but who is not one of your family
(3) 「矛盾した役割」おりの網はたとえば鳥などが外へ出て行くのを防ぐ目的を持っているわけだが、筆者の場合は家の中へ入ってくるのを防ぐ役割を果たしているのである。
(4) 誰しも禁止されるとそれをやりたくなるという経験があると思うが、このことを言っているのである。
(5) ③ twenty or thirty geese had invaded the closed-in veranda は grazing on the flower beds よりも「さらに悪いこと」であるから b worse still が正答である。
この still は「(比較級を強めて) さらに」の意味で、比較級の前のみならず後からも修飾できる。本問がこの例。
④ この文に続くのは Our only really effective scarecrow was ～であるから、大声で叫んでも、激しく腕をふりまわしても「何の効果もなかった」のである。
○ no ～ whatever = no ～ whatsoever [at all ; in any way]
(6) ⑤ is too much for = too difficult to tolerate 「～の手に余る」
「それはガンでさえもたまりかねた」の意である。
= that was more than even our geese could bear 「それは私たちのガンでさえも耐えられるものではなかった」

- (7) take to ~ = take refuge in ~ ; use ~ as a means of escape

ここでは「空中へ避難した」ということ。

Ex. Mr. Mori *took to* the wood. (森さんは (つかまらないうように) 森へ逃げた。)

- (8) 文頭の Of course ~ , but ... は反論の1つのパターンである。Indeed ~ , but ... なども同様である。筆者が主張しているのは one can only get to know the higher and mentally active animals by letting them move about freely である。さらに重ねて how incredibly alert, amusing and interesting is ~ in complete freedom と述べている。高等動物には自由を与えておかないと本当の観察はできないと言っているのである。

全訳

もちろん、居間にふさわしいおりの中に入れて動物を飼うことはできるが、高等動物、つまり知能の発達した動物はそれらを自由に行動させることによってはじめて本当の姿がわかる。おりに入れられた猿やオウムはとても悲しそうであるし知能の発達も妨げられる。同じ動物でも、完全に自由に行動していると、信じられないほど機敏で楽しそうで興味深いものとなる。このような同居人のために払わなくてはならない代償である損害や迷惑は覚悟しなくてはならないけれども、観察や実験に適した精神的に健全な動物が得られる。こういう理由で、私は拘束のない自由な状態で高等動物を飼うことを常に信条としてきたのである。

アルテンベルクでは、おりの金網は、常に逆説的な役割を果たしていた。つまり金網は動物が家の中に入ってくるのを防がなくてはならなかったのである。動物たちは私たちの家の花壇を囲んでいる金網を越えて中に入り込むことも厳しく禁じられていた。しかし①物事は、禁じられると、小さな子供にあてはまるように、知能の発達した動物には磁石が鉄を引きつけるようにどうしてもやりたくってしまうものなのだ。とにかく、優しくて、我々を楽しみ気持ちにさせてくれるハイイロガンは人間と付き合うことをとても望んでいる。そこで、私たちが気づかないうちに二、三十羽のガンが花壇に入って草花をついばんでいたり、あるいはさらに悪いことには大きな声でガアガア鳴きながら挨拶を交わして金網で囲んであるベランダに侵入しているということがいつものことであった。さて、飛ぶことができて、しかも人間を恐れない鳥を追いかけるのは非常に困難なことである。どんなに大声をはり上げても、どんなに激しく腕をふりまわしても何の効果もない。私たちの唯一の本当に効果のあるおとし道具は巨大な深紅のパラソルであった。槍をじっとかまえた騎士のように、妻はたたんだパラソルを小わきに抱え、草花を植えたばかりの花壇でまたもや草花をついばんでいるガンに飛びかかるのであった。妻は狂ったかのように^{とき}関の声をあげ、不意にぐいっとパラソルをひろげるものであった。これにはさしものガンでさえもたまりかね、すさまじい羽音をたてて空中に逃げたのだった。

注

ℓ. 1 ◇ Of course ~ but ... = It is true ~ but ...

◇ one 「(不定・任意の) 人」

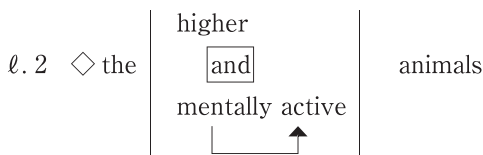
◇ cages

↑ fit for the drawing room

◇ the dráwing róm 「居間」

◇ only : by letting them move about freely を修飾。

◇ get to ... 「…するようになる」



○ mentally *cf.* mental 「頭脳活動の」

◇ How sad and mentally stunted is a caged monkey or parrot

C

V

S

ℓ. 3 ◇ stunt = prevent ~ from growing or developing as much as it or they should;
retard the growth or development of

◇ incredibly = extraordinarily *cf.* incredible = impossible or difficult to believe

◇ alert 「機敏な」

◇ amusing = funny and enjoyable

ℓ. 4 ◇ (even) the same animal

ℓ. 5 ◇ annoyance 「迷惑」

◇ the price (which) one has to pay for such house-mate which を補って考える。

◇ pay the price for 「～のための代償を払う」

ℓ. 6 ◇ subject = a person or thing being used to study something, especially in an experiment

※ここでは「実験用の動物」を指すが、文脈により「(解剖用) 死体；(手術を受ける) 受術者；(実験・催眠術を受ける) 被験者」と訳し分ける必要あり。

ℓ. 7 ◇ unrestricted = not controlled or limited in any way; unlimited

ℓ. 8 ◇ speciality [spɛʃiələti] (specialty) = a pursuit to which someone has devoted themselves to 「常に心がけていること」

ℓ. 9 ◇ Altenberg 「アルテンベルク」(オーストリアの地名)

◇ wire = metal in the form of thin thread ; a piece of this

◇ paradoxical [pəˈrɒdɪːksɪkl] = self-contradictory *cf.* paradox [pəˈrɒdɪːks] 「逆説」

ℓ. 10 ◇ the house 「人間の住居」

◇ forbid O to ... 「Oが…するのを禁ずる」

◇ wire netting = wire that is twisted into a net, used especially for fences

ℓ. 12 ◇ intelligent = having intelligence *cf.* intelligence = the ability to learn

cf. intellect = the person's mental powers of reasoning and understanding objectively

◇ Besides, = Anyway ; Anyhow,

≠ In addition ; Moreover

◇ delightfully affectionate 「楽しくなるほど優しい」《直訳》

→ 「優しくて我々を楽しみ気持ちにさせてくれる」

cf. a deliciously sweet biscuit (甘くておいしいビスケット)

a deliciously ugly chocolate (形は悪いがおいしいチョコレート)

○ delightful = causing delight ; charming

○ affectionate = readily showing affection

◇ greylag geese [gréilæg gí:s] 「ハイイロガン」 cf. greylag goose [gréilæg gú:s]

※移動する前に同属の他の鳥より英国に長くとどまる (lag) 習性より名付けられた。

ℓ. 13 ◇ long for ～ 「～を切望する」

◇ human society 「人間との付き合い」

○ society = company

◇ So it was always happening that (, before we had noticed it,)

twenty or thirty geese { were grazing on the flower beds,
or
(, worse still,)
(with loud honking cries of greeting,)
had invaded the closed-in veranda }

◇ it was always happening that ～

○ it …非人称動詞の主語。

○ここでの「過去進行形」は「反復的な動作」を表し「迷惑」という感情を示す。

○ that (, before we had noticed it,) twenty or thirty geese were grazing ～

that [, M ,] S + V の初学者が見逃しがちな構造。

ℓ. 14 ◇ graze = (of cattle, sheep, etc.) eat grass in a field

◇ honk = the cry of goose

ℓ. 15 ◇ closed-in 「中に入れないよう閉鎖されている」

◇ now 「さて；ところで」 ※話題を変える場合に用いる。

◇ uncommonly = extremely ; to an unusual degree

◇ repel = drive or force back again

ℓ. 16 ◇ which can fly, and has no fear of man この which 節は man まで続く。

◇ (Even) the loudest shouts, (even) the wildest waving of arms

ℓ. 17 ◇ scarecrow ^{かかし} 「案山子」 → 「おどし道具」

ℓ. 18 ◇ knight [náit] 「騎士」

◇ lance [læns] = a long spear used in former times by soldiers on horseback

◇ at rest = not moving

◇ would … 過去の習性。

◇ tuck = put or keep (something) in a specified place

◇ fold 「(紙・布などを) 折り重ねる」

ℓ. 19 ◇ spring at 「～に向かってとびかかる」

○ spring = jump upwards or forwards suddenly or quickly

○ at … 目標

◇ freshly planted 「草花を植えたばかりの」

○ freshly = recently

○ plant = put (a seed, bulb, or plant) in the ground so that it can grow

- ◇ let out は、ここでは utter = make (a sound) with one's voice の意。
- ℓ. 20 ◇ frantic = done quickly and with a lot of activity, but in a way that is not very well organized
- ◇ wár-cìy = a call made to rally soldiers for battle or to gather together participants in a campaign 「(突撃の際の) 関^{とき}の声」
- ◇ unfold = open or spread out from a folded position
- ◇ jerk = a quick, sharp, sudden movement
- ℓ. 21 ◇ our geese *who* … 擬人化。
- ◇ thunder = move very fast and with a loud deep noise

【3】

A.

解答

- (a) (1) I have as many books as you do.(.)
- (2) A woman is as old as she looks.(.)
- (3) The U.S. is around twenty-five times as big as Japan in area.(.)
- (b) (1) Nothing is more pleasant [refreshing] than to take a walk along the beach on a fine [clear] morning.
- (2) Japan is the greatest industrial country in the East.
- (3) He is as great a composer as ever lived [as any].
- (c) (1) These scissors do not cut as well as they used to [once did].
- (2) Being a good listener is as important as being a good talker.

解説

- (a) (1) 「～と同じくらい本を持っている」とは、「同じくらいの数の本を持っている」ということだから、many を補い、have as *many* books as …とする。I have as many books (私は同じ数の本を持っている) as you do (あなたが持っているのと) と考えれば、(×) I have books as many as you do. のような誤った英文は書かなくなるはず。
- (2) 与えられた語句から、A woman is as old as she まではスムーズにできるが、she に続く動詞が問題となる。しかし、She *looks* older than she is. (彼女は実際より老けて見える。) といった基本文を思い付けば、looks を思い付くのはそう難しくはないはず。
- (3) around が与えられているので、「～のおよそ 25 倍 (の広さ)」は around twenty-five times as big as ～で表せる。
「面積」に対応する語は area なので、以上より、The U.S. is around twenty-five times as big as Japan () area. まではできる。問題なのは area の前にくる前置詞だが、「限定・範囲」を表す「～について」「～の点で」の意の in を用いる。A pigeon is different from a sparrow *in* size. (ハトとスズメは大きさが違う。) の in と考えればわかりやすい。

- (b) (1) 「晴れた日の朝に」は、morning が fine で限定されているので、in ではなく on を用いて、on a fine morning とする。

「…するほど～なことはない」は、nothing is so ~ as to …, または、nothing is more ~ than to … [~ing] を用いることができる。後者の場合、「…する」のが「今以後のこと」であれば、than 以下には to 不定詞、「いつものこと」であれば動名詞がくるのが原則。したがって、「海岸を散歩すること」を「今以後のこと」と考えれば、to take a walk along the beach, または、to go for a walk on the beach となり、「いつものこと」と考えれば、それぞれを動名詞にすればよい。

- (2) 「工業国」は an industrial [industrialized] country [nation], 「東洋で」は in the East (the East の代わりに the Orient を用いると古風に響く), 「東洋一の工業国」は「東洋で最大の工業国」と考えて、the greatest industrial country in the East とする。

- (3) 「彼ほどの作曲家はちょっといない」は、「これまでの作曲家の中で最も優れた 1 人だ」、あるいは、「どの作曲家と比べてもひけをとらない」ということだから、前者と考えれば、as ~ as ever lived, 後者と考えれば、as ~ as any を用いる。as は形容詞を引っ張るので、“as + 形容詞 + a [an] + 名詞”の形になる点に注意。なお、He is as great a composer as ever lived. は、He is one of the greatest composers that have ever lived. の意、He is as great a composer as any. は、He is one of the greatest composers. の意で、純粋な最上級とは少々異なる点にも気を付けよう。

- (c) (1) 「このはさみ」は these scissors (複数扱い), または、this pair of scissors (単数扱い) で表現する。

「(刃物などが) よく切れる」は cut well が慣用的な表現で、この cut は自動詞。これを「～ほど…ない」を表す not as … as ~ の枠組みに当てはめれば、These scissors do not cut as well as ~. となり、「前ほど」に当たる as they used to [as they once did] を続ければよい。

主語が this pair of scissors であれば、This pair of scissors does not cut as well as it used to [once did]. となる。

- (2) 「聞き上手〔話し上手〕になること」は、名詞表現を用いて、being a good listener [talker] とする。一般論ではなく、「今後そうなること」と考えれば、to be a good listener [talker] となる。

「～は…と同じくらい大切だ」は、~ is (just) as important as …とすればよい。ところで、「～になる」は英語では to be を用いるとよいことが多い。これは、「～になる」という概念を表すのに、英語では「状況」の面を、日本語では「動作」の面を重視するからである。

Ex. Be a good boy. (よい子になりなさい。)

He will be forty next July. (彼は今度の7月で40才になる。)

B.

解答

- (1) A : I've become terribly forgetful recently. I got two copies of the same book today.
B : Don't worry. You are not as young as you were.
- (2) A : Is the number of TV sets in Tokyo larger than that of telephones ?
B : I don't know.

解説

- (1) 「この頃」は *these days*, または *recently* で表せばよいが, *these days* なら現在時制で, *recently* ならこの文脈では現在完了とともに用いるのがよい。また, 現在時制とともに *nowadays* を用いることも文法的には可能だが, *nowadays* は書き言葉なので, ここでは用いない方がよい。

「物忘れが激しい」は, 形容詞を用いれば *be forgetful (of things)*, 「よく物事を忘れる」と考えれば *often forget things*, 「簡単に物事を忘れる」と考えれば *forget things easily* というように, いろいろと工夫できる。これを *these days*, *recently* に合わせて時制を調節すればよい。

「同じ本を2冊」は *two copies of the same book*, 「買う」は *buy*, または *get* とする。
「気にするなよ」は *Don't worry (about it).*, *Don't be nervous (about it).* などを用いる (*Don't mind.* ではニュアンスが異なるのでここでは不可)。

「昔ほど若くはない」は, 「現在のあなた」(*you are*) と「昔のあなた」(*you were*) との比較で, *A is not as ... as B* (AはBほど...ない) の構文に組み込めば, *you are not as young as you were* とするのは難しくない。また, 劣等比較の *less* を用いて, *you are less young than you were* とすることもできる。

- (2) 「～の台数」は *the number of ～*, 「テレビ」は「受像機」のことなので *set* を付ける方がよい。現在では *set* を付けないこともある。ここでは複数形にして, *TV sets [television sets]* とする。

「～の台数が多い」は, *the number of ～* を主語にする場合, *large [big ; great]* を用いる。

「電話より多い」は, もちろん「電話の台数より多い」ということだから, *larger than the number of telephones*, あるいは, 同じ語句の繰り返しを避けて, *larger than that of telephones* とする。

「さあね」は, *I don't know.* がぴったりである。

【4】

A.

解答

- (1) b (2) a (3) b (4) d (5) a

解説

- (1) 「その実業家は非常に忙しい生活を送っていて, 週末を家族と過ごすことができなかった。」

‘so, as, too, how + 形容詞 + a [an] + 名詞’より **b** が正答。

Ex. I have never seen *so* beautiful *a* sunset.

○ too ~ to … 「非常に～なので…できない」

- (2) 「その時私たちの家を訪れたほとんどすべての客はアメリカの実業家だった。」

almost は副詞で, all を直後に置かなくてはならない。よって **a** が正答。

b almost に代名詞の用法はない。

e Most of the visitors ならば文は成り立つ。

- (3) 「このような特別な状況において役立たないのだから, その政策が施行されるのを, 私たちは決して承認しないつもりだ。」

by no means 「決して…しない」より **b** が正答。

○ allowing that policy to be carried out

○ allow O to … 「Oが…するのを認める」

○ carry out ~ 「～を行う」

a by all means 「必ず」

c definitely 「明確に」

d after all 「①予想に反して；(しかし) 結局」

「②(前文への理由・補足を示して) だって～だから」

※ after all には finally の意味はない点に注意。

- (4) 「君はその場所がわからないでしょう。ここ 20 年間のうちに完全に近代化されてしまっています。」

thoroughly [θɔːrəʊli] 「徹底的に」より **d** が正答。

a immediately 「直ちに」 [= right away ; at once]

b lately *adv.* 「最近」

c likely *adv.* 「たぶん」

副詞として用いられる場合, 通例 very ; most ; quite ; more を前に置く。

- (5) 「ジョージはその仕事の大部分をした。つまり全部したわけではない。」

not … all 「すべて…というわけではない」(部分否定) より **a** が正答。

d not … at all 「まったく…ない」(全否定)

B.

解答

- (1) little (2) enough (3) free (4) like (5) full

解説

- (1) 「私はその事件にはほとんど関係がない。」

○ have little to do with ~ 「～とほとんど関係がない」

cf. have nothing to do with ~ (～とまったく関係がない)

have much [a lot] to do with ~ (～と大いに関係がある)

「少しコーヒーをいただけますか。」

「たいてい私はたくさん朝食をとるが, 今日は少しとっただけだ。」

※ breakfast は不可算名詞だが, 形容詞がつくと可算名詞になる。

○ a light one = a light breakfast

- (2) 「彼は自分の愚かさを悟るだけの分別は持っている。」

○ stupidity *n.*

「私はあのような厳しい経験はもうしたくない。一度で十分だ。」

「彼は親切にも私が上着を脱ぐのを手伝ってくれた。」

○ ~ enough to ... 「…するほど～」

- (3) 「恩赦の結果、釈放された囚人もいた。」

○ set A free 「Aを自由にする」

○ special pardon 「恩赦」

「好きな時間に帰ってよろしい。」

○ be free to ... 「自由に…してもよい」

「これらの品々は無料です。」

○ free of charge [cost] 「無料で」

- (4) 「彼がどんな人か知りたい。」

○ what S is like 「Sはどのようなもの〔人〕か」

「彼女は外見より性格の方が姉に似ている。」

○ like 「～に似た」

- (5) 「コップをいっぱいに満たしなさい。」

「このバスは満員だから、次のバスにしなさい。」

「彼は今でまる1年不在だ。」

「彼女は起こったことについて精一杯の説明をした。」

○ give an account of ~ 「～の報告をする」

※ × give an account *for* ~ とはならない点に注意。

【5】

解答

- (1) sadly → sad

- (2) Almost → Almost all

- (3) literal writings were → literary writing was

- (4) It was unhappy for me → I was unhappy [It was an unhappy thing for me]
quite a few → little [only a little]

- (5) lately → late

- (6) more ill → worse

was impossible to → it was impossible for her to [was unable to]

- (7) industrially → industriously
confidential → confident

- (8) ○

- (1) 「時折理由もなく悲しくなることがある。」
 不完全自動詞 (look [appear ; seem] ; sound ; smell ; taste ; feel ; etc.) + C の形。
e.g. taste sweet (甘い味がする)
 smell good (いい匂いがする)
- (2) 「ほとんどの志願者がその試験に落ちた。」
 almost は副詞なので、名詞を修飾しない。
 「ほとんどの」という意味では“almost all ~”とするか、“most ~” (most は形容詞),
 “most of the ~” (most は名詞) とする。Most applicants ; Most of the applicants
 となる。
 ※ most ~は「一般」、most of the ~は「特定」を表すので、意味の違いに注意。
- (3) 「多くの優れた文学作品が当時出版された。」
 literal は「文字の；文字通りの」の意味なので literary (文学の) にする。
 many a + 単数名詞 (多くの~) は単数扱い。
cf. a good many (かなり多くの) は複数扱い。
- (4) 「少ししかお金を得られず悲しかった [ほとんどお金を得られず悲しかった]。」
 unhappy のような「感情を表す形容詞」は主語に「人」をとる。
 money は不可算名詞なので little, much で形容する。
 quite a little, *not* a little は「かなりの量」の意味なのでここでは不可。only a little
 money (ほんの少しのお金しか得られず) か, little money (ほとんどお金を得られず)
 とする。
- (5) 「遅刻者が最近増えているのを遺憾に思う。」
 ○ the number of ~ 「~の数」
cf. a number of (いくらかの)
 ※数の大小は文脈によるが、通常「多くの」の意味の時は a large number of である。
 ○ lately 「近頃」
- (6) 「彼女はもっと具合が悪くなり、そのパーティに出席することができなかった。」
 ○ ill [bad ; badly] — worse — worst
 impossible は「人」を間接的に形容する補語にならないので、形式主語 it を用いて
 表現する。
- (7) 「私はとても勤勉に勉強したので、目的を達成する自信がある。」
 ○ industry 「①産業 ②勤勉」
cf. industrial 「産業の」 [①から派生] / industrious 「勤勉な」 [②から派生]
 ○ confide 「①信用する ②秘密を打ち明ける」
cf. confident 「自信のある」 [①から派生]
 confidential 「信任の厚い；秘密の」 [②から派生]
- (8) 「彼を喜ばせるのは容易でない。」
 ○ S isn't easy to … 「Sを…するのは簡単ではない」
 to …の動詞の目的語は、文の主語。